

【記者からの質問】

NHK／今回の補正予算案で、重点を置いたところは？

知事／国スポ・全障スポの成果を、この後どうつなげていくか。これまでの歳出をSSPに活かし、「あの大会があったから今の社会ができた」という形にするため予算化した。

また、小規模だが挑戦的な事業として、CSOと取り組む事業を予算化。今後、国の経済対策で重点支援交付金などが出れば、それを活用し物価高騰対策に取り組む。

NHK／子育て支援に着眼した狙いは？

知事／人の痛みに敏感な県政を実現するため、厳しい生活状況にある方々が、将来に希望や夢を持てるようにしたい。CSOの皆さんと協力し、宅食から始まって化粧品へという流れができた。やってみて得た反響や結果を未来につなげ、公共の力で社会全体を明るくするような政策を実現したい。

NHK／現在、国で年収の壁を見直す議論が出ている。減収についての考えは？

知事／減収の観点だけで議論をしてほしくない。保険や年金の問題も含めて、どうあるべきなのか。公共が果たすべき役割を議論し、決着することを期待している。

NHK／減収の試算は？

県職員／72億円。

共同通信／県外のバス運転士に目をつけた意図と確保したい目標人数を。

知事／県内で、なかなか採用できない。人数は、若干名でも取ればいい。何人か採用できればバス路線を確保できる。需要があるのに運転士がいなかったため機会を逃している、というバス会社からの声も多い。これからはいかに人を確保していくかの時代だと実感している。

毎日新聞／72億円の減収への受け止めを。

知事／一般財源がそれほど減収すると、予算が組み立てられない。

毎日新聞／全国知事会と同様、地方への配慮を検討してもらいたいとお考えか。

知事／地方のみならず国税も同じ。公共の仕事とは何かという観点で、国民が議論すればいい。単に、県の予算が組めなくなるといった小さな議論ではない。

佐賀新聞／昨今の物価高のあおりを受け、こども食堂等の運営が難しい団体もあると聞

く。それに対する認識や感想を。

知事／協議会を設立して2年経ち、物量の多い時期・少ない時期、いきわたる地域・団体とそうでないところなど、ミスマッチも多い。4つの拠点を設けることで、調整しやすくなるメリットもある。寄付食品等を出してもらうところは成功した。あとはいかに必要な人に必要なものを届けられるか。今後、質の問題も含め先鞭をつけていきたい。

日経新聞／コスメギフトプロジェクトの300万円は、どこにどんな方法でつけるのか。
知事／大部分は講演会などで、取組を周知する情報発信費。コスメ商品を届けることが認知されるよう、まず知ってもらい、さらに広がるための情報発信費が260万円、梱包や発送作業費が35万円。

日経新聞／4か所の拠点は、食を届けるところと同じなのか。

知事／そうです。今までは、セントラル倉庫から食品を宅食に送っていた。今後は、4つの拠点へ送る。食品とコスメ商品を一緒に配送することも可能になる。

日経新聞／佐賀女子短大のセントラル倉庫に寄せてというイメージか。

県職員／障害者施設で梱包作業後、直接発送することもある。

知事／セントラル倉庫に寄せない場合もある。4つの拠点を活用しながら、より良い集配方法を考えていく。

サガテレビ／103万円の壁の見直し自体には前向きなのか。

知事／103万円を上限に働き控えをするのは課題だ、とは理解できる。働く時間を増やし収入が増え、物価も上がっているなら、103万円から上方にスライドすることは賛成。ただ、単に手取りを増やして税金は少なく納めたいと考える社会はどうか。

フィンランドでは、税金の負担は大きい福祉制度を手厚くし、将来の不安がないという社会共有認識がある。日本は、どのような社会を目指すのか。公共が担う役割が曖昧だから、何となく税金は少ない方がいいというのは課題。身近な話題なので議論が深まるといい。

佐賀新聞／こども食堂が増えている社会情勢をどう考えているか。

知事／必要とされるこども食堂が増えていることはいいこと。今のこども食堂は、食べられない子どもだけでなく、みんなが集まって話ができる居心地の良い場所でもある。こども食堂の数が増えることとあわせて、社会の実相を見つめながら、こども宅食の役割を考えていくべきだ。

日刊工業新聞／バス運転士不足の理由は、高齢化なのか、佐賀県の地域性なのか、それ

とも待遇面なのか、どう分析しているのか。

知事／どこの職場も人手不足であり、転職が多い。バス業界は、コロナで需要が減り、転職した人も多く、戻っていない。

社会に必要なサービス業界で人手不足に陥っている。佐賀県だけではない。

日刊工業新聞／こども宅食の配送にも関係するが、公共から個人のライドシェアなどにサイズダウンすることもひとつの方法ではないか。

知事／環境問題から考えても車社会の中での効率化は必要。自動運転も実験中。すべての車が自動運転になれば事故も起こらない。社会全体で考えないといけない。

朝日新聞／バス運転士の待遇改善への取組を検討しているのか。また、子どもの貧困に対する支援の取組があれば教えてほしい。

知事／バス運転士の問題は、まず支援金の補助をはじめ。

これまでは、路線に対する補助をしてきた。現在の社会状況では公共支援の在り方全体を見なければならない。採用者への支援金は、県として一つの大きなステップ。状況を見ながら、さらに骨太の議論をしていく。

子どもの貧困をなくしたい。県としての公共支援を考え、CSOとの話し合いを進める中で、こども宅食を始め、多くの人があるようになった。そのやり取りで家庭状況などもわかるようになってきた。さらに続けることで、様々な解決策が出てくる。貧困問題は一人一人違うので、それぞれにしっかり寄り添う。きめ細かくやる中で解決策ができて、皆さんが夢を持てる社会をつくりたい。

日刊工業新聞／バス運転士は、日本人だけか。外国人はどうか。

知事／資格があれば対象。

日経新聞／経済的困窮者へのコスメやこども宅食の想定対象者数は？

知事／対象者の線引きはあまりしていない。宅食にもいろいろな人が来て楽しんでいる。化粧をしたいができない家庭があれば、県としてできることがあるのでやってみる。出てきたご意見に応じた対応をしたい。

日経新聞／政策として考える際、対象の規模を想定するはず。コスメ宅配の対象者は、どういう基準や方法で届けるのか。希望者が県にアプローチするのか。

県職員／こども宅食などの支援団体を通じて、必要な人に届ける。コスメは、1,000世帯を想定し準備した。

知事／県が直接ではなくCSOと相談しながら一緒にやっている。1,000でやってみる

が、商品が集まるかなどのマッチングもある。食料もマッチングがうまくいかない中で工夫している。そこも含めてトライアル。

日経新聞／食料は、食材が集まり、こども食堂で調理提供、配るなどわかりやすい。コストは、ミスマッチが起こった場合にどうするのか。想像が難しかったのでお尋ねした。知事／破棄されているものもあるので、今回やってみる。ぜひ取材してもらい、よりよいものにしていきたい。

時事通信／フェムケアでは、解決した先にどんな効果を期待し推進するのか。例えば、婦人科系の病気の罹患率を下げる、出生率を向上させるなどか。知事／まずは男性の理解が進むこと。生理痛の大変さを共有し、女性が休むこと、配慮されることに共有意識を持つ。まずは県庁から、さらに全体に広げたい。

時事通信／健康問題での辞職や休職による経済的損失が、全国で年間3兆円という試算がある。経済的損失削減も期待しているのか。知事／まだ小さな取組。まず、周囲が理解することが大事だし、本人が声を上げられることも必要なので、そういう地域に佐賀県がなれるよう取り組みたい。

時事通信／女性特有の問題に対する男性への啓発活動を、どう推進するお考えか。知事／男性が生理痛の体験をできるグッズがあるらしい。試した女性職員の中には、痛みの感覚が近いと感じた人もいる。個人差もあるようだが、私も含め県庁職員で体験してみる。そういったところから啓発されていくのではないか。